



「後藤田正純×小松島市長 中山俊雄 未来対談」

～徳島県の未来、小松島市の未来を語る～

4月9日に行われた徳島県知事選挙で当選され、新知事になられる後藤田正純さんと中山俊雄小松島市長が、4月14日、みなと交流センター KOCORO ウッドデッキで、徳島県の未来、小松島市の未来について対談しました。今月号ではその一部を抜粋してお伝えします。

なお、対談は公式 YouTube チャンネルにて公開中です。ぜひご覧ください！



YouTube

「ご当選されて今の心境は？」

後藤田 私自身が、ワクワクしていません。やるべきこと、やらなければいけないこと、そしてやれることが沢山ございます。中山市長さんとはですね、昔からお付き合いをさせていただいて、市長も経営者をされていまして、前向きな、前例にとられない、挑戦するという徳島にしていきたいと共に訴えてまいりました。そういう意味では、中山市長とも一緒に仕事していくのも楽しみです。

後藤田 私自身が、ワクワクしていません。やるべきこと、やらなければいけないこと、そしてやれることが沢山ございます。中山市長さんとはですね、昔からお付き合いをさせていただいて、市長も経営者をされていまして、前向きな、前例にとられない、挑戦するという徳島にしていきたいと共に訴えてまいりました。そういう意味では、中山市長とも一緒に仕事していくのも楽しみです。

「市長からも新時代という言葉が生まれましたが？」

後藤田 課題は現場にある。まさにそれが、現場主義だと思っし、「民主主義」っていうのは、「民」が主役なんですよ。我々、市長もそうですけど、権限・権力はあるんですけど、「権力」って元々誰にあるのか、と言ったら、県民にあるんですよ。市民なんです。ですから、「現場の声を聞いて仕事をやる」という新時代にしていきたいと思えます。

「国会議員としての立場とは違うところは？」

後藤田 やっぱ現場が一番近い。現場で、市町村長さんが困っていることや、県民の皆さんが困っている、これを直接聞けて、すぐに対応できる。こういう立場になれたという意味で、非常にワクワクしています。

「中山市長から今後の小松島のビジョンを一言」

中山 人口が、どんどん減ってきてました。これ以上人口が減っていったら、市民サービス、市民の皆さんにできることが減ってきてしまうので、そこは何とか止めていかなければいけない。やはりこの小松島市の一番の魅力、この本港地区というのをもう一回元気にしていこうじゃないかと、本港地区の活性化プロジェクトという計画を昨年取り組んでいるところなんです。それに加えて、子育て中の皆さんが安心してここ、小松島の地で子育てができるような施策を打ち出しているところです。3万6000人の人口を死守していきたいと思っています。

「知事になられる後藤田さんに期待されることは？」

中山 後藤田さんが掲げる公約である徳島新時代を初めて拝見させていただいて、さすが後藤田さんだなと。国会議員の時からずっとそのスタンスがぶれず、本当にセンスがいいというところを見習いたいと思っています。

「後藤田さんから見た今後の小松島の課題は？」

後藤田 選挙中も申し上げてきた「強い徳島を取り戻しましょう」と。そして「未来に引き継げる徳島を作りましょう」と。何かというと、やはり「魅力度」をアップしなければいけない。津波、南海トラフ、そして、先程市長が仰った、子育て、教育、また労働力不足の問題、こういった部分について、「安心度」をアップしなければいけない。次に「戦略」、「戦術」があって、やはり市長さんと一緒に組み立てていきたいと思えます。計画というんですかね、20年先を見越した、目先のじゃなくて。小松島は本当にそういう意味では、色んな魅力がたくさんあります。それを一緒に発信していきたい。

「県市協調」はどのように考えるか？」

後藤田 「県にお願いく」とか、「県がなかなか許可ださない」とかではなく、県と市町村もフラット。協調というのは当たり前であって、特に基礎自治体が主役であると思っています。県はその広域、補完、総合調整、人脈、世界とのつながり、全国とのつながりを作る役割だと思っています。